

いわき地域環境科学会会報



ふいーるど

FIELD No.108

< 目次 >

【会長挨拶】

- ★平成27年の新春を迎えて 2

【報告】

- ★平成26年度第2回幹事会 2
- ★第18回子供環境研究発表会 3
- ★第18回子供環境研究発表会・展示会 4
- ★第11回こども環境賞コンクール表彰式 5
- ★NPOいわき環境研究室 6
- ★自然エネルギー研究会 7

【行事案内】

- ★第26回発表会 8



第18回子供環境研究発表会のようす (11月16日(日)いわき市フラワーセンター)

【会長挨拶】 ◇◇◇ 平成27年の新春を迎えて◇◇◇

会 長 諸橋健一

あけましておめでとうございます。

本年、平成27年は未年。昭和以来90年となります。

会員の皆様には、ご家族の方々とともに、穏やかな新春を迎えられたことと思います。旧年中は、本会の運営に当たりましてひとかたならぬご支援、ご協力をいただき誠にありがとうございました。心からお礼申し上げます。

昨年を振り返ってみますと、想像を超える多くの災害が日本各地で起きました。相次いだ豪雨、それに伴う土砂災害、猛暑も日本列島を襲います。生態系にも異変が起きています。

デング熱を媒介するヒトスジシマカの生息域が拡大し、日本でも感染が広がりました。

これらは、地球温暖化など、地球規模の異変が原因とされています。ICPP（気候変動に関する政府間パネル）の最新の報告では「温暖化は人間活動により進行している」と明言しています。これまでの常識が通用しなくなっている時代がきているのではないかという気がします。

いわき地域に目を移しますと、4年前の東日本大震災以降、大規模災害は発生していません。昔からいわき地域は巨大災害のない地域とされてきました。でも、備えあれば憂いなしです。

本会の事業は、執行体制が変わって以来お蔭をもちましてほぼ順調に進んでいます。5月の総会・交流会に始まり、7月に磯の観察会、またいわき自然エネルギー研究会が立ち上がりました。8月には、日本財団の助成事業であるスナッシーをさがせ。9月に第1回目の環境講座、10月石森山での自然観察会。11月には、フラワーセンターで第18回子供環境研究発表会・第11回いわき子ども環境賞コンクール表彰式が行われました。今年1月に第26回発表会が予定されております。会員の皆様の多くの参加を期待するものです。

終わりに臨みまして、今年1年が皆様にとって、最高に充実した年でありますよう、また、お一人おひとりのご多幸とご健勝を心から祈念申し上げます。

本年もどうぞよろしく願いいたします。

【報告】 ◇◇◇ 平成26年度第2回幹事会開催 ◇◇◇

去る12月20日（土）15時より、いわき市労働福祉会館会議室において今年度第2回目の幹事会を開催しました。当日の出席者は役員・事務局員合わせて18名でした。佐藤事務局次長の進行で始まり、まず諸橋会長より今年一年の会の活動を振り返っての挨拶がありました。続いての議事では、富田副会長が議長に選出され、事務局から今年度の事業中間報告および会計中間報告がなされ、出席者からご意見をいただきました。幹事会は16時40分に終了しました。

【報告】 ◇◇◇ 第18回子供環境研究発表会 ◇◇◇

去る11月16日(日)、いわき市フラワーセンターにおいて、第18回子供環境研究発表会を下記の通り開催しました。作品は、福島県小学生理科作品展いわき地区展(いわきららミューにて9月6日・7日に開催)の中から環境関連の作品を10件選出させていただきました。東日本大震災後、児童による野外における夏休みの自由研究が減少し、環境関連作品が全体的に少なくなったようですが、そのような中でも出展されている作品には、自然環境をしっかりと捉えた作品が多くありました。

当日は、当会の諸橋健一会長の挨拶後、第11回いわき子ども環境賞(別記事参照)の授賞式が行われ、引き続き発表会へと移りました。発表に先立って、いわき市小学校教育研究会の理科部会長である江名小学校武藤忠晴校長先生から発表される児童の皆さんへ心強い激励がありました。

発表では、発表者が一人ずつ順番に自由研究をもとに作成した模造紙大の2枚のポスターの前に立って研究の概要を4分ほどで紹介し、その後一斉に来場者がポスターの前に移動して、発表者と質疑応答を行いました。昨年度の発表形式に比べると、発表者同士もお互いの発表を聞くことができ、お互いに質問し合う光景が見られました。研究の概要を一人一人発表していただきましたが、自分が行った研究をわかりやすく堂々と発表していたのは印象的でした。また、期せずして関連しているテーマの発表があり、これらをまとめるとさらに内容の充実したものになりそうなものや今後の研究の進展につながりそうなものもあり、発表を聞かせていただいた側としてとても興味がそそられました。

これらのポスターは、そのまま11月24日まで同会場において展示され、期間中の来場者には、フラワーセンター顧問の古内栄一氏から、作品の説明が行われました。

最後に、本発表会の開催にあたり、発表された児童の皆さん、ご指導いただいた小学校の先生方ならびに保護者の皆様に感謝申し上げますとともに、さらに今後のご研究の進展を期待します。(表紙写真参照)

●前半の部10:25~11:15 (5発表)

| | | |
|-----------------|-----------|---------|
| 「太陽の力であたためよう!!」 | 平第六小学校3年 | 鈴木郁登さん |
| 「新エネルギーは楽しい!」 | 中央台北小学校4年 | 草野ひな美さん |
| 「地震と建物のゆれ」 | 中央台北小学校4年 | 蓬田楓乃さん |
| 「生き物とすみかの関係」 | 錦小学校4年 | 小松藍人さん |
| 「いわきの鳴き砂」 | 平第六小学校5年 | 大和田波飛さん |

●後半の部11:25~12:15 (5発表)

| | | |
|--------------------|-----------|---------|
| 「不思議な太陽風車」 | 小名浜西小学校5年 | 小林雅治さん |
| 「夜に満開? 朝顔の秘密に迫れ!」 | 菊田小学校5年 | 富樫七海さん |
| 「かしこ沼の水調べ パートIV」 | 豊間小学校6年 | 有働凜太郎さん |
| 「植物をめぐる水 ~吸い上げと蒸散」 | 四倉小学校6年 | 千葉奈央さん |
| 「植物の温度測定」 | 泉小学校6年 | 田中脩吾さん |

【報告】 ◇◇◇ 第 18 回子供環境研究発表会・展示会 ◇◇◇

平成26年11月16日(日)の子供環境研究発表会に引き続き「勤労感謝の日」の振替休日となった11月24日(月)まで、フラワーセンター展示室で子供環境研究作品展が行われました。

昔薪炭林、今植生遷移が進んだコナラ、ヤマザクラ林になっているビオガーデンの赤や黄に彩られた自然林がガラス戸越しに望める展示室に子供達10人の研究作品と標語が並びました。

環境研究に似合った外の景色は展覧者に一服の安らぎを提供できたかと思います。展覧者は休養に訪れる一般客をはじめ、リュック姿の「石森山絹谷富士めぐり」のトレッキング愛好家や養護施設野外活動で訪れる方々、それに3連休当日は親子のにぎやかな家族連れと、成長したお孫さんの作品に目を細めながらしげしげと見学する年配夫人方グループの皆さんが目につきました。

一巡すると一様に感心した面持ちで帰られるのですが、焦点を絞って解説すると感動を深めるようでした。

その中で、「アサガオが夜に満開となる現象」を細かく観察して、その仕組みを実験的に解析した作品の前では、「はじめて知った」「子供に教えてもらった」「よくぞ秘密を解き明かしたもんだ」と驚き・感動・賞賛の言葉を残して退出され、「かしこ沼」の4年間の継続研究で水を浄化する植物の役割を知り、実験結果を基に水の浄化法を提案した作品の前では「大人顔負けだ」「子供ながら立派だ」と感想を述べて帰る方々も居られました。

その一方で遠慮なく「老人にとってイラストやグラフでの説明は親しめて判りやすい」ともらし、展覧者のモチベーションの高まりは視覚にあることを知らされもしました。

また、きれいにまとめられたチャートを見て、親御さんや先生方のご指導・ご支援に敬意を表される元体験者のご父兄老夫妻の姿も見受けられました。

また、小川のイラストの前で、子供時代の川遊びを懐かしみ、いつまでも眺めておられる姿を幾組か見受けると、老人ホームや保健所等に案内状を差し上げて良いのではなかろうかと思う場面もありました。

作品返却にあたり、職員室へ招じられお茶を頂きながら、校長・教頭先生と環境教育談義を交わせたのは嬉しいことでした。

最後に福島高専から掲示用ボードを借用したことに感謝し、篤く御礼申し上げたいと思います。

【報告】 ◇◇◇ 第 11 回いわき子ども環境賞コンクール表彰式 ◇◇◇

当会としては初めてとなる「いわき子ども環境賞コンクール」表彰式は、子供研究発表会と同日の 11 月 16 日（土）にいわき市フラワーセンターで開催されました。このコンクールは、3 月末で解散した、環境にやさしいくらしかたをすすめる会が、いわき市といわき市教育委員会との共催のもと、市内の小中学生が環境保全をテーマに標語を作ることを通して、身近な環境に関心を持ち環境に優しい暮らしを広げてほしいという目的で行われてきたものです。

本年度からその事業を引き継いだ当会が準備を進め、当日は最優秀賞を始めとした 13 作品の表彰が行われました。

作品は、夏休みの課題の一つとして募集が行われ、過去最高の 27 校、829 作品の応募がありました。

審査は、当会の諸橋会長、平川副会長、平第四小学校の宮内教諭、平第三中学校の横須賀教諭、さらにいわき市生活環境部の 5 人の審査員により行われました。

当日は、諸橋会長から賞状と記念品が授与され、入賞作品は 24 日までの 1 週間、フラワーセンターに掲示されました。

今後、いわき市の環境啓発の場に登場する予定です。

○ 最優秀賞

ポイ捨ては あなたのモラル 捨てること 三坂中学校 1 年 和泉 亮平

○ 優秀賞

| | | | | |
|-------|----------|--------|------------|-------|
| でんきけす | ぱばわすれたら | ぼくがやる | 郷ヶ丘小学校 1 年 | 鈴木 侂夢 |
| でんきけす | きみの心は | ひかっている | 平第六小学校 2 年 | 矢吹 愛奈 |
| エコとムダ | どんだんさせよう | 反比例 | 郷ヶ丘小学校 3 年 | 速水 唯峯 |
| 捨てるまで | 命吹き込み | 再利用 | 高坂小学校 6 年 | 高木 康広 |
| 残します | おいしい空気と | うまい水 | 玉川中学校 1 年 | 佐藤 悠希 |

○ 佳作

| | | | | |
|--------|---------|--------|--------------|--------|
| それはプラ | 分ける心が | 世界を変える | 郷ヶ丘小学校 5 年 | 磯上 公之介 |
| ふみだそう | エコなくらしの | 第一歩 | 菊田小学校 5 年 | 櫛田 実希子 |
| そのゴミも | 使えるものに | 大变身 | 菊田小学校 5 年 | 富樫 七海 |
| リサイクル | みんなでしよう | エコひいき | 好間第一小学校 6 年 | 四家 楓花 |
| エコってね | 心ひとつで | かわるもの | 長倉小学校 6 年 | 渡邊 美海 |
| 自分から | 一歩踏み出せ | エコライフ | 小名浜第一中学校 1 年 | 佐藤 似菜 |
| ばあちゃんの | 知恵を活かして | エコ生活 | 植田中学校 3 年 | 酒井 花野 |

【報告】 ◇◇◇ NPO 法人 いわき環境研究室 ◇◇◇

(平成 26 年 11 月 1 日～12 月 31 日)

【1】いわき市内河川の水生生物の生息状況等の調査

当 NPO では、市内河川の水生生物の生息状況とその生息環境等の調査を通じて、水環境の実態を把握し、学校・地域の環境学習の基礎資料の作成を企図しておりましたが、この度、「平成 26 年度環境まちづくり担い手育成支援事業（いわき市）」の助成を受け、標題の事業に取り組んでいます。今年度は、夏井川水系を中心に調査を行いました。調査地点としては、定点 2 箇所（6 月～11 月の間毎月 1 回調査）の他、本川・支川を含む 8 箇所（期間中 1 回調査）の合計 10 箇所を選定しました（図-1）。

調査に際しては、水生生物の他、水質や流れの状況、流域に占める位置等に配慮・記録し流域の水環境マップを作成しようとしています。現在、ほぼ現地調査を終え、報告書等を作成している段階です。



図-1 夏井川流域の調査地点

【2】「第3回こどもあいネットフェア」に参加しました

今回、「こどもあいネットフェア」事務局からの呼びかけで初めて参加しました。平成 26 年 12 月 20 日（土）の午前中、アリオス 2 階にて市内 25 団体が参加して開催されました。当 NPO は、風上に向かって進む車（「ウインドカー」）の実演と製作に取り組みました。子供連れの親子 30 組ほどがコーナーを訪れてくれました。予め用意したキットを使って自分で製作に取り組みだり、完成品を試走させ風上に向かって進む車に驚きの歓声を上げていたのが印象的でした。

【報告】 ◇◇◇ 「いわき自然エネルギー研究会」の動きから ◇◇◇

前号でもお知らせしましたが、当研究会では、自然エネルギーに関する理解を深めることができるよう、学習の中核的な施設として、「水力・風力・太陽光」を使った小型の発電設備を設置する事業を進めているところです。これまで3回の研究会を持ち、事業の進め方について意見交換をしながら進めて参りました。既報では、諏訪神社における自然エネルギー学習施設の紹介と平4小6年生を対象に行った2回の学習支援の様子を紹介しました。本報では、その後、平4小児童64名の現地での学習の様子と田人地区に設置された水車について報告します。

【1】平4小6年生を対象とした第3回自然エネルギー学習支援

平成26年11月11日(火)、平4小に近接する諏訪神社敷地内での学習に取り組みました。当会が用意した学習内容は、①自然エネルギー（水力、風力、太陽光）設備を実際に見ながら発電量がどの程度なのかの体験、②高さ1.5mの透明円筒（20cm毎に穴を開けた）に水を満たした時、側面の穴から出る水脈の出方の予測・観察、③「遡り水車」の競争（第2回目の学習で子供たちが作ったものを各自持参）、④温度差発電や足漕ぎ発電等、⑤諏訪神社脇を流れる小川江筋での翼の違う2台の水車の回転速度の違いを体験。等、盛り沢山の学習となりました。

人数の関係で、午前・午後の2部に分けて実施、支援には福島高専山田研究室の学生3名を含む10名が対応しました。



【2】田人地区の水車

当会会員の蛭田弘幸さんの尽力で、田人支所に隣接した民家敷地内の水路の流れを利用し、直径2.5mの水車が完成しました。予めコンクリートの基礎工を施し、その上に水車が据え付けられました。今後は、発電量等を表示する周辺設備を整備していくこととなります。本施設では、田人地区の学校や地区の方々等を中心とした学習施設として活用できるようになることを期待しています。（文責：橋本）



【行事案内】 いわき地域環境科学会 第26回発表会のご案内

当会恒例の発表会を下記の内容で開催します。今回は、いわき地域で展開されている市民の活動について、ご紹介いただきます。また、若い学生の皆さんの発表もあります。会員の皆様をはじめ、多くの皆様のご来場をお待ちいたします。

記

- 1.日時 平成27年1月18日(日) 13:30～17:00
- 2.場所 福島工業高等専門学校 大会議室
- 3.内容

●開会 (13:30) 会長挨拶／ 司会進行説明(～13:35)

①「ふくしまオーガニックコットンプロジェクトの課題と展望」

吉田恵美子 (NPO法人ザ・ピープル理事長, いわきおてんとSUN企業組合代表理事)

②「こどもの笑顔が見える夏井川をめざして」

阿部孝男 (夏井川流域の会, 夏井川流域住民による川づくり連絡会)

③「これまでの放射性物質検査データから見えてきたこと」

和田隆, 桂伸夫, 菊池英夫, 柳内直一 (生活協同組合パルシステム福島 環境委員会)

④「いわき自然エネルギー研究会の活動(報告)」

橋本孝一 (いわき自然エネルギー研究会)

⑤「自然エネルギーを用いた環境教育システムの構築」

鈴木寛仁, 横山雄太, 渡辺奈於, 山本敏和, 山田貴浩 (福島高専電気工学科)
樋口 登 (福島高専機械・電気システム工学専攻)

蛭田弘幸, 草野芳久, 中西恒雄, 橋本孝一 (いわき地域環境科学会)

⑥「携帯端末を用いた海岸の鳴き砂分布調査の試み」

船山俊哉, 小牧悠里, 山田貴浩 (福島高専電気工学科)

●閉会(17:00)

4.問い合わせ先

いわき地域環境科学会事務局 (発表会担当; 原田)
〒970-8034 いわき市平上荒川字長尾 30
福島工業高等専門学校建設環境工学科
Tel.0246-46-0833
E-mail:harada@fukushima-nct.ac.jp

2015. 1.1 No.108

発行: いわき地域環境科学会

福島工業高等専門学校

地域環境テクノセンター内

〒970-8034

いわき市平上荒川字長尾30

TEL. 0246 (46) 0837

FAX. 0246 (46) 0843

E-mail : mail@essid.org